

世界自然遺産 屋久島 C02フリーを目指して

—電気自動車と屋久島の観光—

2014.9.7

屋久島町商工観光課 松本薫



【世界自然遺産の島 屋久島】

屋久島は1993年日本最初の世界自然遺産に登録されました。九州の南60kmに浮かぶ周囲約130kmの島に、珊瑚礁の海から氷と雪に閉ざされる山岳まで、日本列島の自然が詰め込まれています。





【苔と水の島 白谷雲水峡】

山間部では年間およそ 10,000mm の雨が降ります。多量の雨は沢や川を流れ、深く立ち込める霧は枝葉を露に濡らして苔の森を潤しています。白谷雲水峡は苔とそれを育む水の美しい、溪流沿いの自然休養林です。



【苔むす森】

苔は、森の大地や岩、樹木の幹や枝をも包み、一面緑の世界です。「もののけ姫」のモデルともなった、幻想的な森林風景を作り出しています。



【照葉樹林 松峰大橋】

照葉樹林とは、ツバキやシイなど光沢のある厚い葉を持ち、常緑の広葉樹が多い森のことを照葉樹林と呼びます。各地で広範囲に失われつつある照葉樹林が原生状態のまま残っていることが、屋久島の世界遺産登録理由の一つとなっています。



【ヘゴ】

熱帯・亜熱帯に見られる大型のシダで、大きいものでは高さ 4m に達します。(標高 400m あたりまでの) 人里近い道路や谷筋の林の中に多く見られます。恐竜時代の植物のような姿が屋久島の照葉樹林の中で目を引きます。



【紀元杉】

車で見に行ける推定樹齢 3,000 年の屋久杉です。多くの樹木が着生しているのが特徴で、ヤクシマシャクナゲの花やナナカマドの紅葉など、四季折々の変化が楽しめます。



【ヤクスギランド】

標高 1000m に広がる奥深い屋久杉原生林です。江戸時代の伐採後の切り株などが今も残り、そこにまた次の世代が育つ姿を見ることができます。整備された遊歩道をゆったりと廻ることができます。



【ヤクシマシャクナゲと黒味岳】

標高 1,831m から、宮之浦岳を望み、眼下には高層湿原・花之江河を見下ろす 360° の大パノラマが広がる展望スポットです。6 月初旬にはヤクシマシャクナゲが美しい登山ルートです。



【九州最高峰 宮之浦岳を望む】

標高 1,936m、屋久島のほぼ中央に聳える九州最高峰です。日本百名山の 100 番目で最南端に位置しています。初夏には高山植物が咲き、白骨化した屋久杉が点在し、冬には雪に閉ざされます。



【宮之浦岳 花崗岩とヤクザサ】

森林限界を越えて広がるヤクザサの一带に、島の本体を成す花崗岩が露出して特有の高山景観を作り出しています。頂上からは、島とは思えないほどの山々が連なる雄大な稜線と水平線を望むことができる“洋上のアルプス”です。



【人里から望む奥岳 永田岳】

永田岳は宮之浦岳に次ぐ屋久島第 2 の高峰です。里から見える低山を「前岳」、その奥に聳える山を「奥岳」と呼び、永田岳は唯一里から望むことができる奥岳です。冬の山頂一帯の気候は北海道並みになり、深い雪に覆われます。



【千尋の滝】

人が千人手を広げるほどの大きな岩の横を落ちることから“千尋の滝”と呼ばれます。巨大な花崗岩の一枚岩を削り、V字谷を流れる落差 60mの滝です。展望台からは、山から海へと急激に変化する屋久島ならではの地形を一望することができます。



【大川の滝】

日本の滝 100 選にも選ばれている落差 88mの滝です。水量が多いときは 40mを越える滝幅で流れ落ち、滝壺のすぐそばまで近寄れるため、大迫力を実感できます。



【人里のガジュマル】

東アジアの熱帯・亜熱帯に広く分布しており、屋久島付近が北限です。人里近くの標高の低い照葉樹林の中に点在しています。高さ 20mを超える巨木となり、多数の気根を出して奇怪な姿で人目を引きま。



【縄文杉】

確認されている中で最大の屋久杉です。スギとしては日本一太く、屋久杉に特有の凹凸の激しい樹形です。樹齢は2,170年～7,200年と言われていますが、未だ特定されていません。往復10時間の登山で見に行くことができます。



【ヤクシマシャクナゲ】

屋久島に固有のシャクナゲで、標高1,100mを越える山で見られます。深紅の蕾が咲きすすむにつれ淡いピンク色へと変化します。5月から6月が見ごろで、シャクナゲ登山が盛んに行われます。



【たんかん】

寒暖の差が激しい屋久島のたんかんは味も生産量も日本一です。旬は12月～1月ですが、ジュースやジャムなど加工品作りも盛んで、一年中風味を楽しむことができます。



【ヤクシマザル (ヤクザル)】

ニホンザルの亜種で、体が小さく毛が長いのが特徴です。餌になる木の実の多い照葉樹林に多く、海岸から山頂まで全域に生息しています。世界遺産登録地でもある西部地域では、群れで行動する本来の生態を見ることができます。



【ヤクシカ】

ニホンジカの中で最も小型の亜種で、角の枝分かれも少ない可愛らしい姿です。海岸から山頂まで全域で見られ、人里の道路にも出てきます。静かにしていると車中やトレッキング中に観察することができます。



【ウミガメ】

屋久島は、北太平洋最大のアカウミガメの産卵地です。5月～8月に産卵のために上陸し、7月～9月にふ化した子ガメは海に向かいます。永田浜では、産卵期とふ化期に「観察会」が行われています。

屋久島と電気自動車



出典: 屋久島県原毛支庁屋久島事務所作成資料「屋久島CO2フリーの島づくりに関する取組みについて」より

屋久島は“水の島”

「一月に35日雨が降る」
といわれるほど雨の多い島

豊かな水が屋久島の生命と生活の源

【屋久島の年間平均降水量】
平地：約4,500mm
山間部：約8,000mm以上

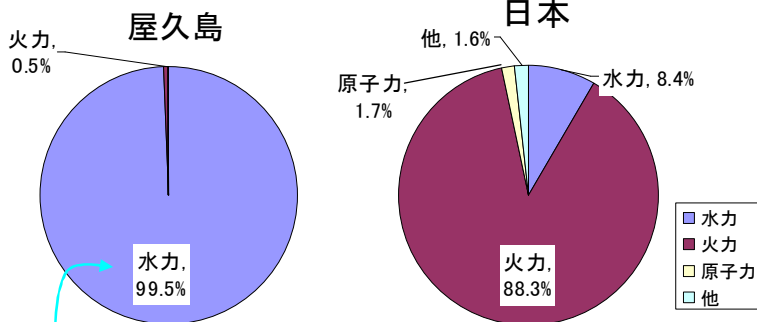
参考)
東京-1500mm程
大阪-1300mm程



“水力発電”がキーワード

水力発電の島「屋久島」

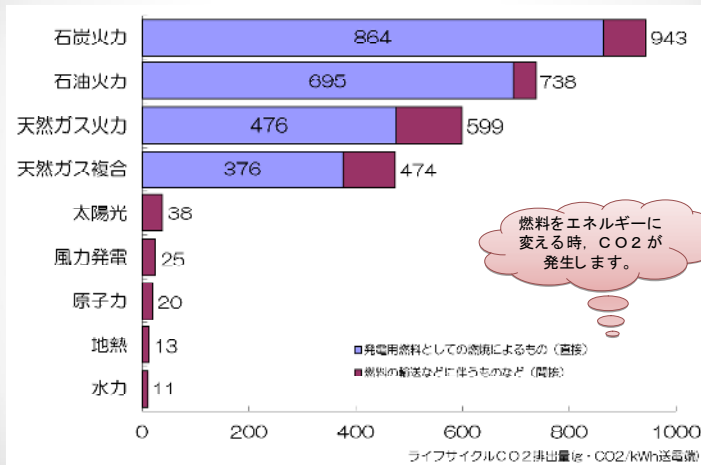
屋久島の電力は、豊富な水を活用して、
発電のほぼ全てを水力発電でまかっています。



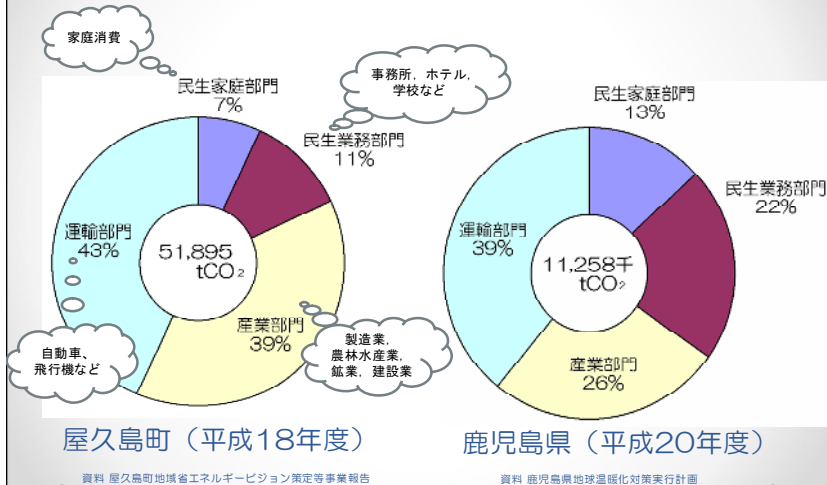
エネルギー源がクリーンな水力
(CO2の発生がほとんどなし!)

電気事業連合会HPより

各種電源のCO2の排出量



屋久島のCO2の排出量



「屋久島CO2フリーの島づくり」

屋久島はほぼ全ての電力が水力発電でまかなわれている
 この特徴を活かした、石油類を燃料にしない
 CO2排出量の削減された先進的な地域づくり

運輸部門からのCO2排出量の抑制を
 目指し、電気自動車に購入補助



屋久島は、世界でも有数の「環境先進地域」
 としての可能性を秘めています。

屋久島電気自動車普及促進支援事業

国・県の補助金を利用した場合の導入経費

日本一の補助額！

電気自動車 主な銘柄	N社 R	M社 M	M社 I
性能（走行距離）	228 km	150 km	180km
車両本体価格（税抜）	3,306千円	2,879千円	3,619千円
補助金額	国	780千円	850千円
	県	500千円	950千円
導入経費	2,026千円	1,079千円	1,809千円

4年間（平成22年度～25年度）で、150台！



29台



79台

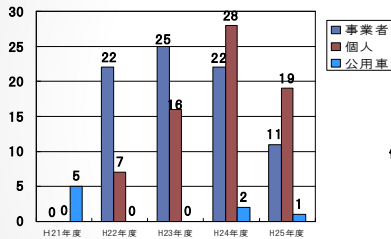


42台

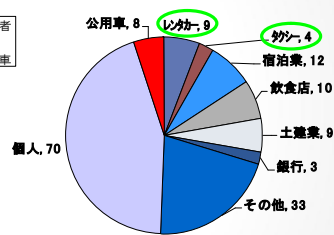
屋久島における電気自動車導入状況

4年間（平成22年度～25年度）で、158台！

年度別導入車台数



導入者比率



電気自動車台数

(平成24年度 概算値)

	自動車	電気自動車	割合
屋久島	※1 約10,000台	120台	1.2%
日本	※3 約7,370万台	※4 約38,700台	0.05%

※1 軽自動車を含む乗用車・貨物車 ※2 屋久島HPより
 ※3 一般財団法人自動車検査登録情報協会 HPより
 ※4 一般社団法人次世代自動車振興センター HPより

電気自動車用急速充電設備の設置状況



今後の課題
山間に急速充電設備を

小水力発電

白谷雲水峡 ミニ水力発電設備(4kW出力)



総落差 76.5m 有効落差70m 使用水量110/秒 水力発電6kW 発電機出力4kW

“地球に優しい
自然に優しい”
地域づくり

